ふれあい Communication 2012

第8号

菊池有働病院

KUMAMON

平成23年秋まつりマスコット「くまモン」

発行：菊池有働病院広報委員会

ごあいさつ

菊池有働病院　院長　大塚直尚

【病院理念】

信頼と真心ある医療を提供いたします！

2011年3月11日に我が国を襲った東日本大震災は、現実に地震や津波の被害をこうむった東北地方の太平洋岸のみならず、原子力発電所の事故での放射能被害やその影響での電力不足など、遠く九州に住む私たちの生活にも様々な影響を及ぼしました。

私も熊本県の災害派遣医師として被災した方々のメンタルケアを担うべく、5月2日から9日まで津波による大災害を受けた宮城県の南三陸町に行って参りました。「行って見て来る」というのは実に大切なことで、ニュースなどでは解らなかったいろいろなことに気付かされました。

まずは津波の大きさです。ニュース映像は助かった人が高台から写しているのが多いので分からなかったのですが、実際に地面に立って4階建のビルの屋上に残る津波の爪跡を見上げると、「自分があの時ここに居たら絶対に助からなかった…」と恐怖感が湧きました。また海外メディアの一部で賞賛された日本人の避難所生活ですが、認知症の老人が環境の変化で徘徊してしまい、うとまれて家族もろとも避難所から出て行ったり、アルコール依存症の人が避難所内で遊んでいる小学生を怒鳴りつけてひんしゅくを買ったり、実際はけっこう世知辛く、美しい話ばかりではありませんでした。

震災の影響で昨年を代表する漢字に「絆」が選ばれましたが、絆…って何でしょうか？　精神科病院に長期に入院している人生の先輩方を見ていると、親子、同胞…と家族の繋がりはどんどん薄まり、正月の外泊にも行けない方が増えてきました。しかし一方では同じ屋根の下で生活している同病の仲間や職員との間に、新しい繋がりも生まれます。「自分がいざという時に頼りにできる人は誰だろう…」そんなことを考えるとともに「この病院はいざという時に地域で頼られる病院だろうか…、いや、そうあらねばならない…」という思いを強くした一年でもありました。

今年が皆様にとって幸多き年でありますようお祈り申し上げます。

精神科の終末期医療

菊池有働病院　院長　大塚直尚

ことばは悪いですが、「ボケるなら穏やかにボケたい」「ボケる前に死にたい」とか、最近よく耳にします。できれば私自身もそうありたいですが、いかに医者であっても、こればっかりはどうしようもありません。お釈迦様の時代から「生老病死」はどうしようもないことなのです。

認知症になると、その人の以前の姿からは考えられないような暴力的な言動、破廉恥な行為などが現れ、「困ったおじいちゃん（おばあちゃん）」になってしまうことがあります。しかし、もしもその人の人生が、このような病気による不名誉な状況で締めくくられるとしたら、その人にとってこれ以上屈辱的で痛恨なことはないでしょう。

最近私は精神科医として認知症に関わる中で、お年寄りの方には尊厳をもって人生を全うしていただきたい…と考えるようになりました。認知症そのものは相変わらず症状をわずかに改善させるか、進行を2～3年遅らせることぐらいしかできませんが、見守る家族の負担になる「怒りっぽい」「邪気回し」「ごろごろ寝てばっかり」「歩き回る」などの症状は、けっこう改善させることが出来るようになりました。

家族がへたってしまい患者さんに憎しみが向く前に、どうか精神科医療に繋がって、家族も患者さんもハッピーに終わりの準備をしてもらう…。終末期医療というと癌などの痛みの治療や往診による在宅治療を想いがちですが、精神科ではこういうのも「あり」だと思っています。

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して

地域へ足を運び、医療の視点から認知症の正しい理解と支援の輪を広げるために日々頑張っています。

外来診療

●早期発見 ●診療体制の整備
●地域でのもの忘れ相談への協力

人材育成

●認知症サポーター養成講座の受講
ミニ劇団員・認知症相談員・学習会講師など地域で活動中！

住みよい地域は人づくりから

認知症サポーター講座を職員みんなで受講しました。サポーターの証『オレンジリング』が腕に光ります！

地域推進

●街頭啓発活動（講演会など）
●認知症見守り訓練への参加
●認知症地域資源マップ協力

～寸劇・家族が認知症になったら～

家族懇談会にて経験豊富な当院スタッフが『寸劇』を行いました。
認知症の人によく見られる場面を再現し、上手な対応の仕方を学びます。
地域の出前講座に出演中のスタッフも多数！

「わたしゃ、今日はもう帰ります。お世話になりました」
「ばあちゃんここは家よ。一緒にお茶飲もうか～」

「わたしの通帳はどこやったな？盗ったろ？」
「あれ～どこにいったかな？一緒にさがそうかね～」

施設紹介

精神科デイケア ひまわり会館

家にいると時間を
持て余してしまう…

相談相手や
友達がほしい…

退院したけれど
まだちょっと仕事を
始める自信がない…

ひまわり会館はそのような方たちが昼間の時間を過ごす場所です。

精神科デイケアでは、地域社会の中でうまく暮らしていけるように、不規則になりがちな生活のリズムを整え、人とのつきあいを楽しくできるよういろいろな活動を取り入れています。

デイケアの一日

時間	内容
9:30～11:20	朝のミーティング 午前のプログラム
12:00～14:00	昼食・入浴（温泉） 休憩
14:00～15:10	午後のプログラム
15:20～15:30	終了ミーティング

プログラム内容

調理・園芸・スポーツ・創作
革細工・SST（生活機能回復訓練）
音楽・カラオケ・ハンドベル
脳トレ・室内ゲーム・ビデオ鑑賞…
その他、季節に応じた活動
病院行事、地域で行われる行事
スポーツ大会など

開所日
月～金曜日
（祝日は閉所）

利用料
各種保険適用となり、
自立支援医療制度も
利用できます。

行ってみたいな！と思ったら
診察のときに主治医に
相談してください。

栄養課ページへようこそ!

☆ 温かい食事の大切さ ☆

2011年3月11日の東日本大震災によって引き起こされた食への不安は、皆さんにとっても大きいものだったと思います。当病院でも、毎日当たり前のように手元に届いていた食材が、届かない可能性があるということを初めて実感しました。

また、防災の日の9月1日に非常用備蓄食品を使って食事を提供するというシミュレーションを、実施したことは、とても貴重な体験となりました。

備蓄食品

備蓄食品の米に水を加えるだけで御飯が出来上がります

非常食一例

大震災以後、被災地でまとめられた報告によると、温かくて水分のあるものを食べた時に、「助かったんだ・・」という安心感と、「これから大変だけどがんばろう」という気持ちが湧いてきたのだそうです。この情報を知り、災害時の対策を現在見直しているところです。水道・ガスなどのライフラインが途絶えた場合でも、入院患者様やデイケア通所者の方に不安を与えることなく、食事を提供していくには何を準備し、どう動いたらいいのかをさらに検討しています。

また、私たちは、大震災をいつまでも忘れることなく、“災害に負けずに食事を届けられた経験者”の貴重な情報を今後に活かしていかなければならないと思います。

☆ 紅白のあんこ餅で「福」を呼ぼう ☆

当病院では、企画委員会の活躍により様々な年間行事が目白押しです。
その中で「餅つき」は患者様、職員総出で行う一年間の締めくくりの行事となっています。

餅は「望」を意味して「家族みんなが幸せでありますように」と感謝を込めて神仏にお供えし、食べることで健康になるという説もあるようです。石臼でついた紅白のあんこ餅は、入院患者様、デイケア通所の方、職員全員に振る舞われます。毎年、約1000個のつきたてのお餅が一年の無事と、来年の福を祈り、皆に「おいしい」幸せを運んでくれています。